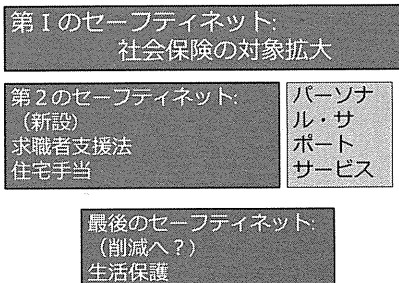


公開シンポジウム「社会的包摂—政策の成
功と失敗—イギリスの経験・日本の希望」
2012.1.7 慶應義塾大学

どのように包摂？
あるいは参加？

日本女子大学 岩田正美

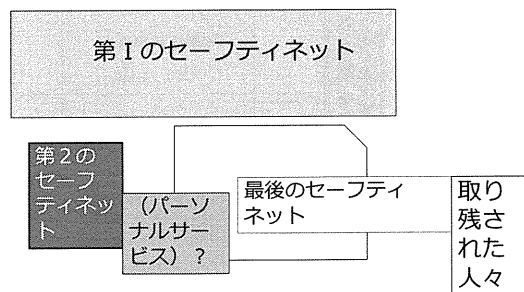
多層セーフティネットの提案（理想）



就労促進と新たな給付について

- あくまで就業支援（自立支援）が核（ワークフェアとの共通性）
- これに給付、住宅手当、パーソナルサポートサービスを付帯させたことは評価
- ただし、給付は就業支援とのセットで、あくまで厳しい条件型給付である
- 給付は新たな社会扶助ではなく雇用保険の一部として実施され、生活保護等との整合性を欠く。

多重セーフティネットの現実



資源とパーソナルサポートサービス

- 個人に寄り添ったパーソナルサポートサービスの必要性。ただし、社会福祉のソーシャルワークと基本は同じ。
- 問題1 どこに帰属するのか？どこが経営するのか？
- 問題2 利用できる資源や機関の豊富さに規定される。

パーソナル・サポートサービスと同時に提案されたはずの**住宅手当**がかすんでしまっているのでは？
幅広い低所得対策の必要性。

包摂される社会は？参加する人は？

- 労働参加と労働の現実
分断された「孤独な職場」
- 地域参加と地域の現実
地域の疲弊 → 広範な移動の可能性
狭い地域を越えた連帯の必要
- 排除された人を包摂する**社会それ自体**の見直しの必要
- 排除された**人々の自発的な連帯**による参加の可能性は？

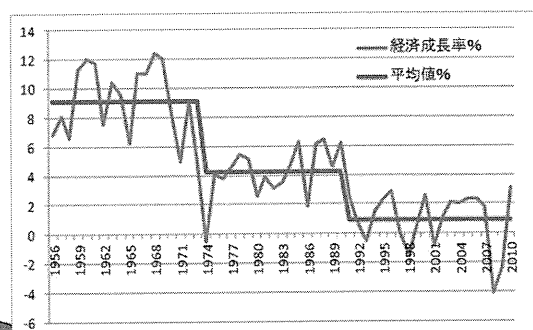
社会的包摂への課題 -雇用システムの変動と 若年世代に着目して-

慶應義塾大学
駒村康平

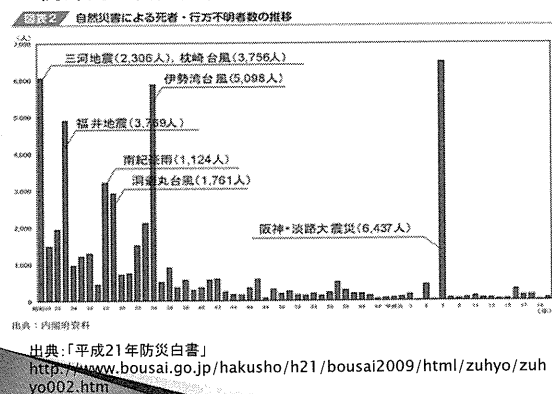
「麗しの時代」と転換期の90年代

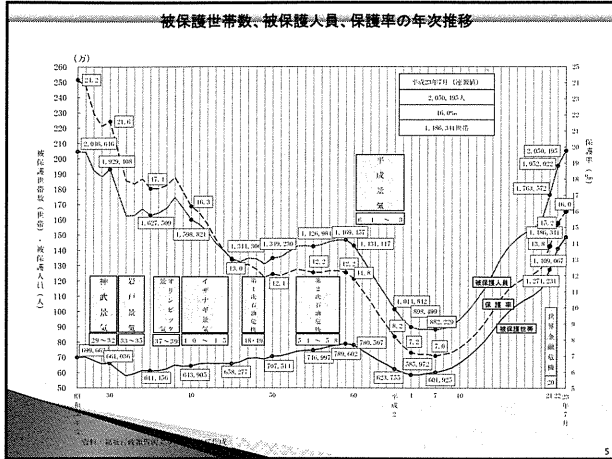
- ▶ 1960年代から1990年前半まで安定した日本の4つの社会経済システム(職・家族・住居の保障)
- ▶ 1)雇用システム:日本型経営・日本型雇用(職場における身分の保障、終身雇用、年功賃金)
- ▶ 2)家族システム:ひとり働き(専業主婦モデル、持ち家政策)
- ▶ 3)社会保障・税システム:皆保険・皆年金
- ▶ 4)教育システム:学校から職業への移行
- ▶ 偶然:歴史上まれな自然災害の少なさ(1960-95)
- ▶ →忘れられた「貧困」、限定的な社会的排除

経済成長の長期動向 (内閣府SNAより作成)



例外的に自然災害の少ない時期:1960-1990年





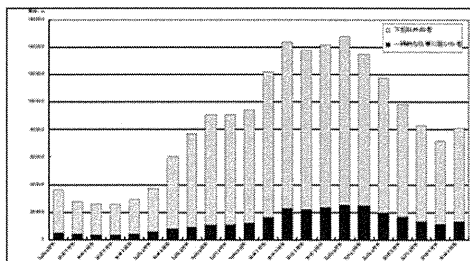
二つの世代(親子世代)対比

- ▶ 1: 団塊世代(1947-49年生まれ)
- ▶ オイルショック: 1973年(団塊世代22-26歳)→安定成長、日本型雇用、持ち家政策
- ▶ 2: 団塊ジュニア(1971-79年生まれ)
- ▶ バブル崩壊1990年、93年就職氷河期(団塊ジュニア14-22歳)
- ▶ アジア通貨危機(1997年: 団塊ジュニア18-26歳): 正社員になれない大卒の急増
- ▶ グローバル経済への対応
- ▶ →職の不安: 非正規労働者(ワーキングプア)、家族形成できない(未婚者の急増)、住居の不安

学校から就職の掛け橋の劣化

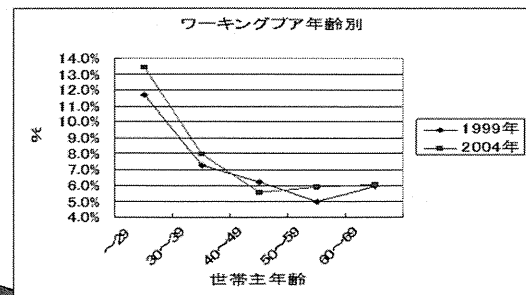
出典: 日本学術会議「大学と職業の接続のあり方について」

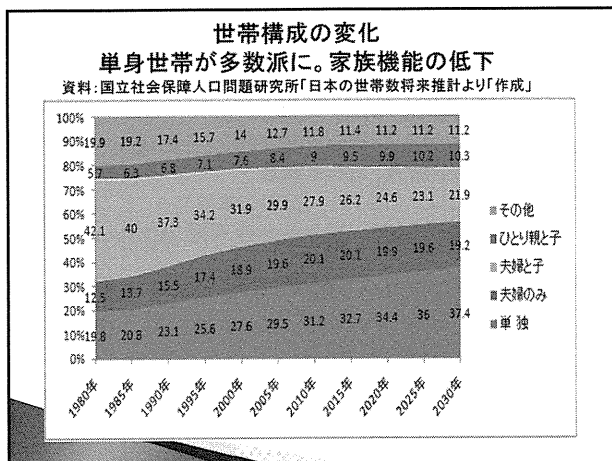
図3 大学卒業生の進路で「左記以外の者」と「一時的な仕事に就いた者」の推移




若い世代で増加するワーキングプア

- ・世帯主が就労していて、世帯の合計所得が生活保護以下の貧困世帯(ワーキングプア世帯率)
- ・1999年から2004年の間で若年世帯の貧困率が上昇





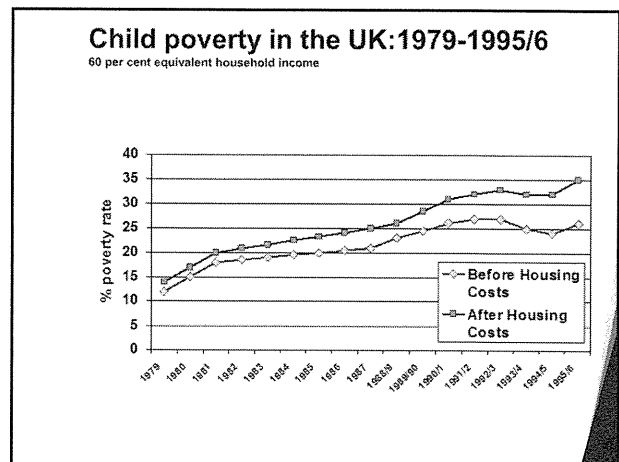
- 社会的包摂への課題**
- ▶ 若い世代の職・家族・住居での不安低下→深刻になる孤立化、貧困・排除の世代間連鎖
 - ▶ 政府の対応：貧困の確認、求職者支援制度の創設、労働法の改革
 - ▶ 生活保護と求職者支援の連携の欠如
 - ▶ 雇用システムの課題：正規・非正規労働者の処遇問題
 - ▶ 所得保障制度の課題：社会保険中心の限界
 - ▶ 弱体化する福祉行政（スキル、人数の不足）
 - ▶ 地域、自治体の取り組み（釧路市、埼玉県等）
 - ▶ 社会的包摂の新しい担い手

THE UNIVERSITY of York  spru Social Policy Research Unit

Child Poverty

Jonathan Bradshaw

Public symposium
Is Japan an Equal Society?
Policies against poverty and social exclusion
Keio University
Tokyo
7 January 2012



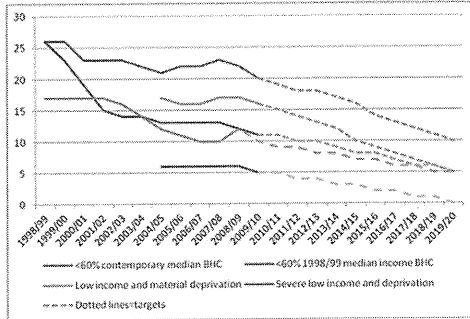
The child poverty strategy to eradicate child poverty

- ◆ Manage economy to ensure low inflation and high employment
- ◆ Welfare to work
- ◆ Increases in in-work benefits
- ◆ Increases in out-of-work benefits
- ◆ Big investment in services - health, education, childcare
- ◆ Institutional transformation
- ◆ Child Poverty Act and child poverty targets

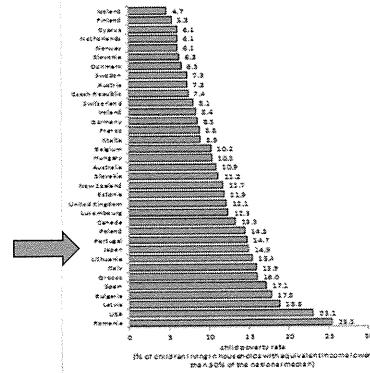
Child poverty targets for 2020

- ◆ Relative low income = Equivalised net household income less than 60% median 2020 target: <10% of children
- ◆ Combined low income and material deprivation = Material deprivation >20% and equivalised net household income less than 70% median 2020 target: <5% of children
- ◆ 'Absolute' low income = Equivalised net household income falling below 60% of the 'adjusted base amount' 2020 target: <5% of children
- ◆ Persistent poverty = Equivalised net household income less than 60% of median for 3 years prior to current year 2020 target: not yet set

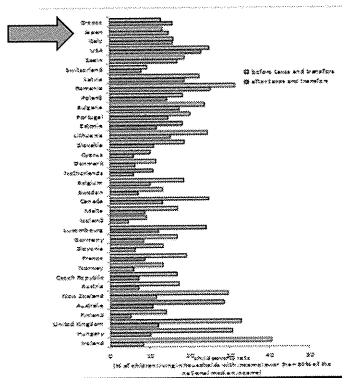
Child poverty fell – but not sustained



Child poverty rates in the OECD (<50% median) circa 2008 –UNICEF Innocenti Report Card 10



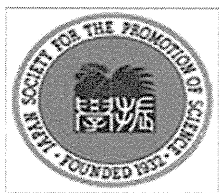
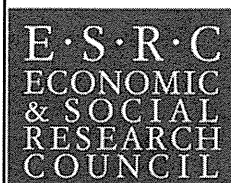
Transfers reduce child poverty but not by much in Japan



Now recession and new coalition government

- ◆ Plan to cut £80 billion deficit by 2013
- ◆ 25% from increases in taxes
- ◆ 75% from cuts in services and huge reduction in public employment
- ◆ Whole package highly regressive
- ◆ Children have done much worse than pensioners
- ◆ IFS say it will increase child poverty
- ◆ Unemployment up – youth at record levels
- ◆ Discourse has become behavioural
- ◆ Focus on early years

**Christina Pantazis
University of Bristol**



Policy Lessons from the UK

The 1999 Poverty and Social Exclusion Survey of Britain found that the experience of poverty and social exclusion was widespread. For example:

- ❖ Roughly 9 million people in Britain could not afford adequate housing e.g. their home was unheated, damp or they could not afford to keep it in a decent state of decoration.
- ❖ About 10.5 million adults could not afford one or more essential household goods, like carpets for living areas, a telephone or to repair electrical goods or furniture when they broke or wore out.
- ❖ A third of British children were forced to go without at least one of the things they need, like three meals a day, toys, out of school activities or adequate clothing. Eighteen percent of children lacked two or more necessities

Policy Lessons from the UK

- ❖ Almost 10 million adults and 1 million children were excluded from participating in social activities such as visiting friends and family, having celebrations on special occasions or attending weddings and funerals.
- ❖ Nearly 1 in ten of the population have no family member outside the household who they see or speak to at least once a week.
- ❖ Nearly 1 in ten people lack emotional or practical support in times of need.
- ❖ Many people are without work and/or live households where no one is in paid work

Policy Lessons from the UK

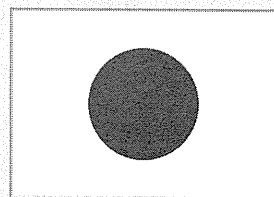
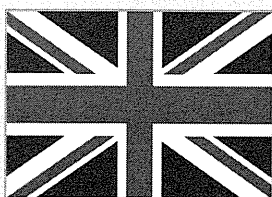
- ❖ Paid work can help lift individuals and families out of poverty but in-work poverty remains a significant issue.
- ❖ There is a need for improved benefits and higher quality of universal public services.
- ❖ There is a need for improved environmental conditions
- ❖ There is a need to tackle the widening inequalities in income and health

公開セミナー

子どももの貧困

に対する政策を考える

Japan-U.K. Research Cooperative Program



第Ⅰ部 日英における子ども手当・子ども給付の迷走

ジョナサン・ブラッドショー (ヨーク大学)

所道彦 (大阪市立大学)

第Ⅱ部 子どももの貧困と社会的排除を理解する

エスター・ダーモット (ブリストル大学)

松本 伊智朗 (北海道大学)

第Ⅲ部 子どももの貧困に抗う実践プログラム

湯澤 直美 (立教大学)

埋橋 孝文 (同志社大学)

挨拶／司会／コメント

橘木 俊詔 (同志社大学)

山森 亮 (同志社大学)

矢野 裕俊 (武庫川女子大学)

マーサ・メンセンディーク (同志社大学)

デイヴィッド・ゴードン (ブリストル大学)

企画

阿部 彩 (国立社会保障・人口問題研究所)

厚生労働省の発表によると、日本の子どももの貧困率は15.7% (2009年値)。1980年代から一貫して増え続けています。ようやく子どももの貧困を社会問題として認識しつつある日本社会ですが、子ども手当、高校授業料の無償化など、子どもに対する政策は迷走状態にあります。

今、日本が、子どももの貧困について、できることは何なのか。グローバル化の避けがたい影響として、増え続ける子どももの貧困に手をこまねいて見ているしかないのか。

1999年に「子どももの貧困撲滅」を公約に掲げたイギリスは、2010年に「子どももの貧困法」を成立させ、政府が子どももの貧困を削減することを義務づけられました。

一方で、日本では子どももの貧困率は公表されたものの、貧困の子どもたちがどのような状況にあるのか、子どももの貧困にどのような教育、福祉、社会保障政策を打ち出していくべきか、模索の状況にあります。

イギリスの十数年の成功と失敗から、日本が学ぶべきことは何か。たっぷりと議論していきます。

2012年1月9日(月・祝)10:00~17:00

同志社大学 寒梅館
ハーディーホール

入場
無料

定員
800名

申込
不要

同時
通訳

<http://www.ipss.go.jp/int-sem/JPUK2012>
(最新情報は特設webサイトへ)

プログラム
program

- 10:00 開会挨拶 橋木俊詔 (同志社大学)
Opening Words by Toshiaki TACHIBANAKI (Doshisha University)
- 10:10 第Ⅰ部 日英における子ども手当・子ども給付の迷走
Session 1 Child Benefits
司会：山森亮 (同志社大学)
Moderator: Toru YAMAMORI (Doshisha University)
「イギリスの家族手当の変容：新政権の動き」
The New Government and Family-related Benefits in the UK
発表者：ジョナサン・ブラッドショー (ヨーク大学)
Jonathan Bradshaw (York University)
「子どもの貧困対策と日本型福祉システムの限界：子ども手当の迷走」
Policy Responses to Child Poverty and the Limits of Japanese Welfare System : Lessons from Child Benefit Reform
発表者：所道彦 (大阪市立大学)
Michihiko TOKORO (Osaka City University)
- 質疑応答
Q&A
- 12:00 休憩・昼食
Lunch Break
- 13:00 第Ⅱ部 子どもの貧困と社会的排除を理解する
Session 2 Understanding Child Poverty and Social Exclusion
司会：矢野裕俊 (武庫川女子大学)
Moderator: Hirotohi YANO (Mukogawa Women's University)
「子どもの貧困における親の役割」
The role of parents in child poverty in the UK
発表者：エスター・ダーモット (ブリストル大学)
Esther Darmott (Bristol University)
コメント：阿部彩 (国立社会保障・人口問題研究所)
Comment: Aya ABE (IPSS)
「子どもの貧困と「重なりあう不利」」
Child poverty and 'overlapping disadvantages'
発表者：松本伊智朗 (北海道大学)
Ichiro MATSUMOTO (Hokkaido University)
コメント：ジョナサン・ブラッドショー (ヨーク大学)
Comment: Jonathan Bradshaw (York University)
- 14:45 休憩
Break
- 15:00 第Ⅲ部 子どもの貧困に抗う実践プログラム
Session 3 Tackling Child Poverty
司会：マーサ・メンセンディーク (同志社大学)
Moderator: M.Mensendiek (Doshisha University)
「子どもの貧困とソーシャルワーク」
Child poverty and Social work
発表者：湯澤直美 (立教大学)
Naomi YUZAWA (Rikkyo University)
「貧困と子どものコンピテンシー」
Poverty and Competency of Children
発表者：埋橋孝文 (同志社大学)
Takafumi UZUHASHI (Doshisha University)
コメント：デイヴィッド・ゴードン (ブリストル大学)
Comment: David Gordon
- 16:45 閉会挨拶 阿部彩 (国立社会保障・人口問題研究所)
Closing Words by Aya ABE (IPSS)
- 16:55 閉会
Closing

開催概要

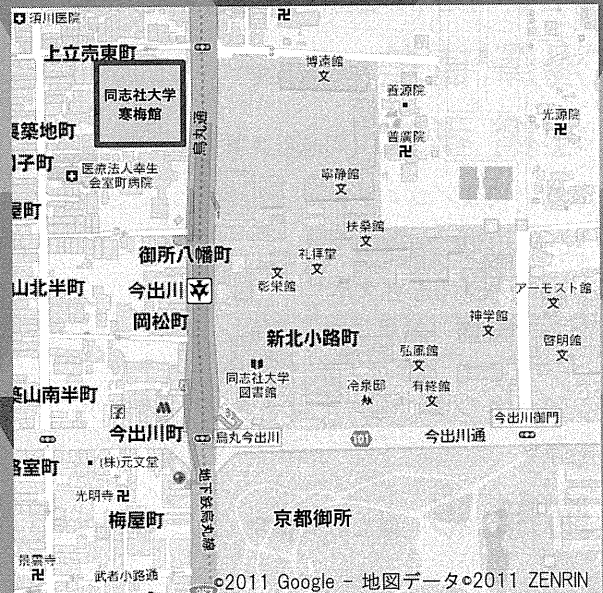
- ◆イベント名
公開セミナー
「子どもの貧困に対する政策を考える」
- ◆日時：
2012年1月9日 (月・祝)
10:00 ~ 17:00 (9:30 開場)
- ◆会場
同志社大学 寒梅館 ハーディーホール
(〒602-0023 京都府京都市上京区烏丸通上立売下ル御所八幡町103)
- ◆言語：日本語、英語
◆通訳：同時通訳有り
- ◆参加費：無料
◆定員：先着800名
◆事前登録：不要
- ◆主催：国立社会保障・人口問題研究所／ブリストル大学
◆共催：同志社大学社会福祉教育・研究支援センター／同志社大学ライフリスク研究センター
◆このセミナーは平成23年度独立行政法人日本学術振興会とイギリス Economic & Social Research Council との二国間交流事業 (セミナー) による支援を受けて開催されます。
- ◆セミナー特設Webサイト：
<http://www.ipss.go.jp/int-sem/JPUK2012>

お問合せ先

- ◆同志社大学ライフリスク研究センター
Tel: 075-251-3728 Fax: 075-251-3727
E-mail: rc-risk@mail.doshisha.ac.jp
<http://liferisk.doshisha.ac.jp>

会場へのアクセス

- ◆会場
同志社大学 寒梅館 ハーディーホール
- ◆アクセス
地下鉄烏丸線「今出川駅」2番出口から徒歩1分



©2011 Google - 地図データ ©2011 ZENRIN

子どもの貧困対策と
日本型福祉システムの限界：
子ども手当の迷走

大阪市立大学大学院
生活科学研究科
所 道彦

子どもに関する給付の迷走

①民主党マニフェストの看板プログラム

「中学卒業まで、一人当たり年31万2000円(月額2万6000円)の「子ども手当」を支給します」

- 次代の社会を担う子ども1人ひとりの育ちを社会全体で応援する
- 子育ての経済的負担を軽減し、安心して出産し、子どもが育てられる社会をつくる
- 相対的に高所得者に有利な所得控除から、中・低所得者に有利な手当などへ切り替える

子どもに関する給付の迷走

②普遍主義的現金給付システムの実施

- 所得制限なし
- 中学生修了までの児童を対象
- 月額13000円>(2年目26000円の予定だった)
- 従来の児童手当法の仕組みが残る複雑な制度
- 2010年4月から実施

子どもに関する給付の迷走

③子ども手当の見直し・廃止・新手当?

- 国会での与野党対立
- 財源問題
- 必要な5.4兆円確保できず
- 満額支給を断念
- 震災の影響
- 2011年8月、民主、自民、公明の三党合意によって、現在の「子ども手当」を事実上廃止

子どもに関する給付の迷走

- 2011年10月から年齢や出生順による支給金額
- 現在の子ども手当の支給額(月額)
 - 3歳未満が15000円、
 - 3歳から小学校修了前が10000円(第3子以降は15000円)、
 - 中学生は一律10000円

子どもに関する給付の迷走

- ④2012年度に新たな制度を導入する予定
 - 新たな制度では、所得制限を導入
 - 年収960万円(夫婦+子ども二人世帯)程度で所得制限が行われる予定
 - 支給額は現在のままの予定
 - 所得制限がかかる高所得世帯に対しても、減額された給付を行うことを検討
 - 現在も、2012年度以降の制度設計が見えない。新制度の名称も迷走？

子ども手当の迷走から見えるもの

- 前例のない制度批判
- 「社会保障制度のあり方」に大きな問題
 - 震災や財源問題だけが迷走の原因ではない
- 子ども手当批判論から見える問題の克服が重要
 - 子どもの貧困対策の基盤形成の条件

「子ども手当」批判論の検証

- ①効果が不明>手当の趣旨・目的の混乱
「次代の社会を担う子どもの健やかな育ちを応援する」(子ども手当のリーフレット)
- >一般には多様な説明が行われている
 - 貧困対策
 - 少子化対策
 - 子育て支援対策
 - 経済対策

「子ども手当」批判論の検証

- ②「バラマキ」批判
 - ・ 高所得者には不要
 - ・ 現金給付への批判
 - ・ 子どもに使われるか不明
- ③不公平論
 - ・ 一部世帯(専業主婦世帯など)にはマイナス
 - ・ 可処分所得が減る世帯もある

「子ども手当」批判論の検証

- ④現金よりも現物・サービスを
 - ・ 保育サービスの整備の方が重要
- ⑤財源問題
 - ・ 財源が不足する場合の手立て不十分
 - ・ 旧来の児童手当制度の残存と地方負担

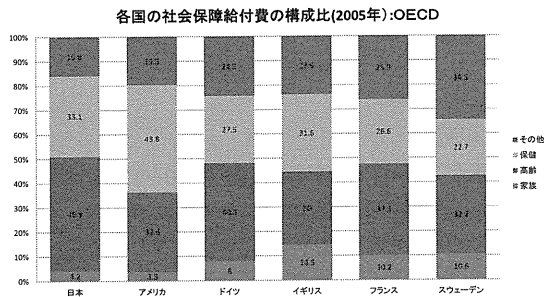
子ども手当迷走から見える 日本の問題

- ・ 他の先進国と同じタイプの現金給付施策にこのような批判が出るのはなぜか？
- ・ 貧困問題の受け止め方
 - OECDの相対的貧困率は、30か国中27位
 - 日本の相対的貧困率
 - ・ 全体で15.7%、子どもの貧困率は14.2%
 - 大きな政治問題とならないのはなぜか？

子ども手当迷走から見える 日本の問題①

- 子どもへの給付を後回しにした日本
- ・ 年金・医療保険制度を創設・拡充(1960年代)
 - ・ 最後に児童手当制度(1970年代)
 - ・ その後、児童手当を縮減(1980年代)
 - ・ 近年、少子化を背景にようやく拡充傾向
-
- ・ 後発制度への拒否反応
 - ・ 優先度が低い「子ども」

社会保障給付費の構成比



子ども手当迷走から見える 日本の問題②

社会保障制度全体を後回しにする日本

- 経済の余裕がある時だけ社会保障を拡充？
- 「経済が回復すれば……」？
 - 労働市場の変化、非正規化、若年者の雇用状況の厳しさなどの認識は十分か？
 - 格差の問題への対応をどうするのか？

子ども手当迷走から見える 日本の問題③

残余主義的福祉観の国

- 本当に必要な人にだけ出せばいい
- 「自助論」「家族責任」の強調

「日本型福祉システム」の限界は認識されているのか？

- 介護の社会化 >> 公的介護保険制度
- 子育ての社会化 >> ？？

子ども手当迷走から見える 日本の問題④

社会保障制度の認識の偏り
救済施策としての社会保障・社会福祉

- 困っている人を助けること？
- 「相対的貧困」理解の欠如
- 社会保障の再分配機能の理解は？？
 - 子どものいない世帯から子どものいる世帯へ
 - 高所得の世帯から低所得の世帯へ
 - 世代間の支え合い

これらが同時進行していること、
税と社会保障がその機能を担っていること
が社会的に理解されていない

子ども手当迷走から見える 日本の問題⑤

普遍主義的給付への反発

- 「全員に給付するのはおかしい論」
- 特に「現金給付」への批判

- 税負担が異なることが理解されていない？
- 古典的な「選別主義」VS「普遍主義」
- 選別のコスト、負担しても給付がないこと、スティグマの問題、階層社会の固定化等はどう考えるか？

子ども手当迷走から見える 日本の問題⑥

個別の家計にとって増減(損得)だけで議論

- 制度改革前後での個別家計での比較
 - 「旧制度と比較して、年収〇〇円の家庭では減少……」
- 「子どものいる世帯と子どものいない世帯との間の差」「異なる所得階層での子ども一人当たりの給付の差」についての関心が不足
- 日本中すべての家庭が「損」をしない制度改革はあり得ない

子ども手当迷走から見える 日本の問題⑦

社会保障・社会福祉の政策の優先順位？

- 「限られた財源の有効な使い道論」
- 「保育サービスの拡充優先論」
- 福祉関係者までが批判・自己抑制論？

「二者択一論」的政治の問題

- 「保育」or「手当」？「就労」or「福祉」？
- 「高齢者」or「子ども」？
- 「経済」or「社会保障」？

子ども手当迷走から見える 日本の問題⑦

政府の説明責任

- 正当化するために多様な説明を動員>混乱
- メディアの責任

- 給付面だけを説明して、所得再分配全体のシステムを十分に説明しなかったことに問題
- 超党派的なコンセンサスの不在

「子どもの貧困」問題との関連

- 子ども手当の迷走
 - >「子どもの貧困問題」解決のためのプラットフォームの欠如を示すもの
 - >「貧困」=絶対的貧困？
 - >「貧困対策」=自助？
 - >「子育ての社会化」へのコンセンサス？
- * 日本型福祉システムの完全転換が必要

今後の課題

- 「子どもの貧困」と政策議論
 - 「絶対的貧困」と「格差問題」
 - 「子どもの貧困問題」を社会構造的な問題として理解できるかどうか？
 - 「子どものウェルビーイング」に関する議論
- 「子どもの貧困対策」とは何か？
 - 「貧困」の「救済」=「貧困者のための施策」？
 - 「格差問題」の当事者は誰か？

今後の課題

- 子ども手当の役割の認識と説明の再構築
 - 「子ども手当・児童手当」>一つの施策の額面の給付額だけで「貧困問題」は解決しない
 - 貧困対策の前提として「水平的再分配」+「垂直的再分配」+「世代間再分配」のトータルパッケージが必要>子ども手当の意味
 - これに加えて、領域ごと・課題ごとの施策の拡充
 - 「再分配の構造転換」の必要性
 - 個人単位の損得論からの脱却

今後の課題

- トータルな社会保障論の議論
 - 税負担や税控除とセットの議論が必要
 - 財源問題は政治の問題
 - 単純明快なシステムの必要性
 - 「税制度」の問題点の再確認
 - 高齢者への給付とのバランス
 - 一体化した議論の展開が必要
- >>「税と社会保障の一体改革」への期待と不安



Promoting Parenting: a UK response to improving outcomes for children


Tackling Child Poverty: Lessons from the UK and New Frontiers in Japan
Doshisha University, Kyoto
9th January 2012



Dr Esliher Demnoff, Sociology, Politics & International Studies

☞ Overview


- Parenting
 - Focus of political and policy attention in UK.
 - Current government emphasises importance of parenting and downplays significance of poverty
- What is parenting?
 - Cultural expectations about what 'good' parenthood is
- Difficulties of measuring parenting
 - Refers to collection of activities, styles and attitudes
- *But, ignores resources and how practices and attitudes interact with social situation*



☞ Parenting


UK governments' view of family

- Conservative Government (1980s & early 1990s)
 - 'Family Values'
 - "There is no such thing as society. There are individual men and women and there are families." (Margaret Thatcher 1987)
- New Labour Government (1997-2010)
 - 'Hard-working Families'
 - "Every policy examined, every initiative tested, every avenue explored to see how we strengthen our families" (Tony Blair 1997)



☞ Parenting

British Prime Ministers doing parenting...



☛ *Parenting*

The current government's view

- Parenting now often referred to as the most significant element for children's wellbeing
- "It is family background, parental education, good parenting and the opportunities for learning and development...that together matter more to children than money (*The Foundation Years: preventing poor children becoming poor adults* 2010:p5)
- "the right kind of parenting is a bigger influence on their [children's] future than wealth, class, education or any other common social factor" (*Early Intervention: The Next Steps* 2011:p xiv)



☛ *Parenting*

The current government's view

- "What matters most to a child's life chances is not the wealth of their upbringing but the warmth of their parenting." (David Cameron 2010)
- The current government therefore emphasises parenting as offering both the cause of childhood problems as well as the potential solution for countering negative outcomes for children
- **Parenting versus Poverty**



☛ *Parenting versus Poverty*
UK Riots August 2011

Explanations offered by government focused on individual responsibility linked to absence of appropriate parental role models and inadequate parenting



☛ *What is Parenting?*

From form to function

- Shift from interest in particular family forms e.g. single parent households
- Shift to activities of parents "what parents do not who they are that makes the difference"



✿ *What is Parenting?*
Contemporary Change in UK families

- Separation of sex from marriage
 - Sex before marriage, extra-marital relationships, higher age at marriage, higher levels of cohabitation, acceptance of gay sexual relationships
- Reconstruction of marriage as a terminable arrangement
 - Divorce and remarriage
- Separation of childbearing and childrearing from marriage
 - Extra-marital births, lone parenting, step/blended families



✿ *What is Parenting?*
Contemporary Change in UK families:



Prince Charles and Camilla the Duchess of Cornwall divorced and remarried; extra-marital relationship; children from previous relationships.



✿ *What is Parenting?*
Shift from 'being' to 'doing'

- Variation in living arrangements and range of personal relationships thought of as 'family' mean there is less focus on ensuring a single 'best' family form



✿ *What is Parenting?*
Good Parenting = Intensive Parenting

- Intensive
 - highly demanding, child-centred approach
 - time and emotionally intensive enterprise
 - requires knowledge (from experts)



☛ *What is Parenting?*

Intensive Parenting - Supernanny



- Routine and Teamwork
 - "Sometimes, all a family needs is some structure and some practice at working together to get them back on track."
- Discipline and Reward
 - "Positive attention and praise are the most effective rewards for good behaviour, but sometimes it's important to give your child boundaries and let them know that certain behaviour is unacceptable" 'Naughty Step'

<http://www.channel4.com/programmes/supernanny>
<http://www.youtube.com/watch?v=aj0u8aZ-5O8>



☛ *What is Parenting?*

(also) Good Parenting = Intimate Parenting

- Intimacy
 - dyadic approach, focused on development of close parent-child relationship
 - emotionally intensive (though not necessarily time intensive)
 - requires communication, emotional engagement

☛ *Measuring Parenting*

- "We all know what good parenting looks like" (David Cameron 2010)
- But not straightforward to translate these cultural expectations into quantifiable measures; most sociological research has relied on qualitative research
- Parent-child relationship
- Parenting behaviours
- Parenting activities

☛ *Measuring Parenting*

- Parenting measurement tends to include:
- (1) Parent-child relationship, e.g. perception of relationship quality *'how close a relationship do you have with your child?'*
 - Relationship quality is inherently subjective.
 - Not meaningful unless both parties express an opinion
 - Measure requires a battery of questions, preferably supported by observations and interviews as well